

☆ 社会科 野外観察カード ☆ (身近な地帯を探る)

4組37番 6名 (6班)

◇ 観察のねらい

地図のはたらきを理解する
 実際に現地(沼山市)を観察し方法を学び、地理学習の
 野外観察ルートマップ(全体を着色しよう) 足がかりとする

学校を地点として、ていねい書く。観察順に番号で示し、そのルートを朱記する。全体的に地図記号を用い、建造物には名称をいれる。

観察地点1 三角点	観察地点3 空積疎水の 跡	観察地点5 鬼三郎の由來	観察地点7 新地町の 歴史
観察地点2 沼山小学校	観察地点4 法現寺の 墓地	観察地点6 法現寺の お寺	観察地点8 段丘岸に 立つ住宅
			観察地点9 土地利用 を調べる。

△ 観察の結果、印象の深かった地点をスケッチで表現しよう。
 △ 聞き取りを対話形式に変わしたり、写真のてんぶ等して効果を高めよう。

- 沼山第二中学校
- 空積一帯
- 沼山小学校
- 沼山小学校
- 沼山小学校

観察からの感想

気付いたこと、学んだこと、疑問点、要望等を自由に書いてください。

- 空積疎水のあるところ。昔は原野でほとんどは田畑だったが、今は住宅が立ち並び、疎水は近くの田畑をうるがしている。(昔の人の努力が今の沼山)
- 沼山小学校 - モロ川底とあつとこの川は川底の作用によってありあつて出来た地形である。この階段状の土地をみると、昔の様子が読みとれる。
- 法現寺 - お坊さんの話を聞いた。鬼三郎の由來や人間の生きかたもお聞きした。
- 沼山川 - 川の生きかたがわかった。私達の生活にどのような影響をおよぼしたのか。川は生き物の"家"であり、人間に大い息をあたえてきたはずである。

(7) 資料のまとめ

収集した沼山の資料から、グループで検討し報告書作成に必要なものを取捨選択する。約2か月間の期限で報告書にまとめる。

(8) 発表会・展示会の実施

発表という活動や結果としての作品を通して地理的な見方や考え方を高め合う。

3. まとめ

(1) 野外観察と調査は、取り上げるのに難しい学習内容といわれている。それは、準備が大変であり、のぞましい観察事象が近くに見あたらない、交通事情から危険だ等の問題点があげられている。しかし、きめ細かな指導計画と適切な指導があればそれは可能であることを実践から

学び得た。

(2) これを実施した後の生徒の地理学習の取り組みをみると、チームワークが確立し、意欲的な調べ方、発表の仕方が見られるようになり、成果は大きかったと思われる。

(3) 「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、体験したことは理解する」ということばがあるが野外観察や調査の指導にあたって肝に銘じておきたいことばである。

※参考文献

- 中学校学習指導要領・社会 (文部省)
- 中学校指導書 社会編 (")
- 小学校学習指導要領・社会 (")
- 社会科教育No. 283 (明治図書)